

感謝の心

中 條 道 雄

私は1995年に長年滞在していたアメリカから帰国して、母校である関学に当時第8番目の学部として新設された総合政策学部で教鞭をとらせていただくことになって以来、六甲の「神戸ユニオン教会 (Kobe Union Church)」の会員として日曜礼拝に出席しています。この教会では欧米・アジア・アフリカなど世界の多くの国々からの人々が英語を共通語として神様を礼拝しており、関学を始め近辺の大学の学生も出席しています。普段の日曜は礼拝の後で「コーヒーアワー」の懇親の時を持ってから英語と日本語での「聖書の学び」の会を持っていますが、年に4回ほどは皆で昼食を共にする「ランチ会」もおこなって多様なバックグラウンドの人たちによる国際交流の時を持っています。先日の日曜は「感謝祭」礼拝と会員総会の後に「感謝祭ターキー昼食会」に多数が参加して交流の時を持つことができましたが、この日の礼拝での説教のタイトルはまさに感謝祭にふさわしい“Living with Gratitude” (感謝の生活) でした。この説教での聖書のみ言葉は新約聖書のテサロニケの信徒への手紙一の5章 16-18 節の「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです」でした。このみ言葉は良く知られた言葉で私も関学の中学部に入学して以来、チャペルや聖書の時間で何度も聞いてきた聖句ですが、この「いつも喜んで」「絶えず祈る」「どんなことにも感謝する」ことの難しさはこれまでに常に感じてきたことでした。我々の現実の日常生活の中では全てが常に順調であることはなく、いろいろな困難や健康・家族・仕事などでの悩み等も起こり「いつも喜んで」「どんなことにも感謝する」ことは非常に難しいことですが、そのためのキーワードが「絶えず祈る」であると最近強く感じています。これからクリスマスに向けて関学でも各キャンパスで多くのクリスマス行事が予定されています。私も毎年都合のつく限り「クリスマスツリー点灯式」、「関西学院クリスマス礼拝」などに出席させていただいていますが、今年も今一度「感謝の心」を新たにしておいてクリスマスを迎えさせていただきたいと願っています。

(総合政策学部教授)